

播磨 まちかどニュース

With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース With いなみ野学園 (108)

私たちの歩みそして未来へ

◆配信日：令和7年10月1日◆

「播磨街角ニュースウィズいなみ野学園」の番組が、この放送が始まって何と「200回目」に！！

第1回
(放送日)2017年5月1日～5月31日



平成29年5月が第1回目の放送です。丸々8年。「よく続いてきたなあ～」というのが正直な気持ちですが、これもひとえに、視聴者のみなさんの暖かいご支援があったからこそです。本当に有難うございます。

今回、これまで出演されたMCのみなさんに集まっていただき、それぞれの思い出を語っていただきました。それでは、第1回目放送でMCを担当された菊池富美子さんからです。菊池さんは、「ナレーションということで、無我夢中に原稿を読んだ気がします。言われた時はナレーションなんてできるかな？と思いつつ、とにかく、大変緊張した事、覚えています。今、思い出すととてもいい体験ができて



有難かったと思っています。」と話されました。

次は、岩崎富子さんです。岩崎さんは、「私の記憶に残っているのは、快晴の桜満開の時、スタッフの藤井さんと赤木さん、私の三人で一緒に取材に行きました。立雲狭から眺める和田山竹田城の桜・篠山城の桜・養父郡の古木、樽見（たるみ）の桜の取材でした。とても桜がきれいでしたね。二日目は、篠山城を。その日は生憎の雨。女性二人傘をさして桜並木の中を歩きました。その日は強行軍で学園へ戻り、すぐに編集にかかりました。きつかったですが、その時の事、鮮明に記憶しています。他にも、イチゴ農家に取材に行った時、拳（こぶし）ぐらいの大きさのイチゴを食べました。格別美味しかったですね。いい思い出です。」と。

ここで、橋本正人兵庫県生きがい創造協会理事長兼いなみ野学園長から、「お祝いのメ

ッセージ」がありました。

「放送200回、おめでとうございます。精力的に番組制作に関わり情報発信して、学園からの発信だけでなく、県下のスポット、行事や町に出て気になる話題、出来事などを放映してくれています。地域に根差した地域に愛される番組として、今後共、頑張っていた



だきたいです。」とエールが贈られました。

次は、長谷川和子さんです。「親子陶芸教室でインタビューした時のことが、今でも脳裏に残っています。スタッフからマイクを渡され、「インタビューして来て」といわれ、初めてマイクを持ってインタビューに臨みました。もうドキドキで、手もガタガタ震えました。でも、その後は、段々と落ち着いてきて話ができるようになりました。とてもいい経験ができたと思っています。」と話されました。



続いて、吉川千代子さんです。「一番印象に残っているのは、寒い朝、霜柱の立つ農園での収録です。

現場は冷たい風が吹いて、側の道路は通勤の車もバンバン走る音が入るなど大変でした。撮影が始まると、スタッフからは車の音がうるさい、風の音が入るなどなど、まあ～色々と注文が出ました。が、その場はなんとか切り抜けました。放送日の朝、ドキドキしながらテレビを見て安心しました。巧く編集をしていただいていた、感謝感激でした。」とのことでした。

進行役の大前小夜子さんからも、「こうして皆さんの話を伺うと、色々とその時のことが

甦ってきました。私もいい思い出ばかりが残っています。その中で、先程、岩崎さんはイチゴの話でしたが、私の一番の思い出は、昨年8月、ウエルネスパークに施設紹介の取材で訪れた時です。そば打ち教室が開かれており、先生が「試食しますか？」と尋ねられたので、思わず「はい」と返事し、試食しました。あのおそば美味しかったです。」と話されました。

最後に延原順子さんです。「テレビ番組制作に関わり、初めての経験をたくさんさせてい



ただきました。桜満開の曇川を兼本先生と歩きながら曇川の伝説をお聞きました。また、他にも印象深いのは、姫路の明珍本舗を訪れたことです。工房は江戸時代の加治屋さんの世界で、鋼（はがね）を打つ槌（つち）音や、風を送る「ふいご」の音、パチパチ弾く炎など、とても臨場感がありました。撮影スタッフはあっちに行ったりこっちに来たりして、カメラポジションの設置に苦労されている光景が今も残っています。後日、オンエアを見て、喋る方も大変ですが、現場でカメラを回されているスタッフの苦労もよくわかりました。それに、今日こうしておしゃべりできるのも、この番組を見ていただいている視聴者の皆さんの温かなご支援があるからだと思っています。」と話されました。



最後に全員で「今後とも楽しい番組を作ってまいります。これからも頑張ります。温かいご支援をよろしくお

願いします。」の決意を述べて200回記念を終えました。(総合司会 大前小夜子)

兵庫県立図書館を訪ねて

◆配信日：令和７年１０月１６日◆



今回は、兵庫県立図書館をご案内します。令和７年９月１８日（木）に訪れました。いなみ野学園の大学院生並びに研究生にとって、発表のための資料集めには苦勞します。そうした資料集めの利用方法などについて、担当の方に案内説明してもらいました。

館内はとても広く専門分野の書籍が集まっており、聞くとところでは「蔵書数 66 万点」もあると。開架フロアーに 10 万冊があり、残りは倉庫に収納されていると言うことです。また、別の部屋に兵庫県だけの「蔵書コーナー」もあり、その規模に驚きました。



兵庫県立図書館利用サービス課の主任：宮城理奈さんに順次、案内していただきました。

広い館内には、他にも「マイクロ新聞室」、「子ども子育て資料室」、「新聞閲覧室」、などの部屋があり、「国立国会図書館デジタルコレクション」のコーナーではインターネットでアクセスできるようになっていました。「マイクロ新聞室」では、明治・大正の昔の

新聞がフィルムで閲覧できます。



「子ども子育て資料室」では、絵本がたくさん揃えられ、壁には子どもたちが喜ぶような装飾もされていました。「新聞閲覧室」では、地元紙である神戸新聞は地域全エリアが揃えられていました。他の全国紙は勿論、地方紙なども揃っているとのことでした。「国立国会図書館デジタルコレクション」では、パソコンから国会図書館の資料も調べられるということで、宮城さんに国会図書館の資料を探し出す方法や使い方を教えてもらいました。

別の部屋「ふるさとひょうご情報室」には、入ってすぐのところに「兵庫ゆかりの作家コーナー」があり、玉岡かおる、陳舜臣、

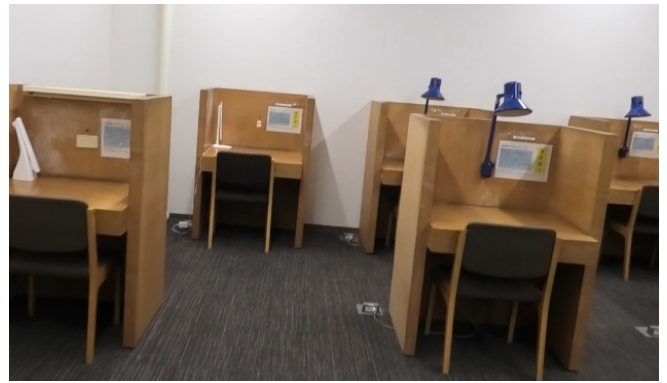
手塚治虫、宮本輝などのよく知る人の本が並んでいました。



また、「フェニックスライブラリー」のコーナーには、阪神淡路大震災に関わる資料が揃えられていました。勿論、主となる東播・西播の歴史を始め、県下各地に関わる資料が一堂に揃えられているのです。



兵庫県を知るには、ここにきて調べることが一番だと実感できました。また、私たちいなみ野学園生の発表論文が保存されていることを知り、驚きました。半永久的に残してくれるのですから、これは誇らしく素晴らしいことだと思いました。



今回の取材で、県立図書館は様々な書物・文献が揃う素晴らしい図書館だと改めて思いました。とはいえ、今回の撮

影が全部ではありません。是非、興味関心のある方は訪れてみては如何でしょうか？

また、県下にある図書館（他の地域の図書館）の書物を、ここ県立図書館を通せば、取り寄せて借りることもできるそうです。

最初、私たちを館内に招いていただいた兵庫県図書館指導主事兼調査専門員：上村直毅さんと、案内役を引き受けていただいた宮城理奈さんのお二人には大変お世話になりました。有難うございました。

今回の取材で思い浮かんだ「ひとこと」。
「学びに寄り添う知の宝庫 我ら論文も添えられて うれしい誇り」



(インタビュー 古川 千代子)

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html

《編集・発行》 いなみ野学園 ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座・研究生）

☎ 079-424-3342

